

訂正とお詫び

本誌のバック・ナンバーにおいて、下記の箇所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
(編集部)

■ 2002年5月号

● 特集

p.172 20行目: f_m [GHz]

p.175 図12のキャプション: 1 ns 立ち上がり…

p.175 図13のキャプション: 遠端ショート時の

● わかる!! アナログ回路教室

p.224 左↑12行目の式の右辺:

$$= \frac{R_2}{R_1} \frac{A\beta}{1+A\beta} \frac{R_1}{R_2} \frac{k_{CMR\alpha}}{1} \frac{1+A\beta}{A\beta}$$

p.227 図5-13のキャプション: 図5-12(b)の回路のゲイン計算

p.228 図5-14: G_D に関する式の右辺は R_5/R_4

■ 2002年6月号

● 作りながら学ぶ初めの高周波回路

p.119 表6-2と表6-3の内容を入れ替え

● 発掘!! あるある回路集

p.122 図2: C_7 は1 μ F

p.122 図3: OPアンプの+と-の記号を入れ替え

● 特集

p.138 右↓1行目: プロジェクト・ダイアログ

p.161 図6: TA7291Fの5番ピンと15番ピンを接続する。

p.176 右↑11行目: およそ800 h バイト (2 Kバイト)

p.190 右↑5行目: 設定周波数が直読できて便利→位相の計算が簡単に

p.192 右↓23行目: …一致しているので, 設定位相加算に小数点以下の…

p.193 右↓14行目: …v499_1に入れ, v499_1のアドレスをWレジスタに…

p.194 右↓2行目をすべて削除

● わかる!! アナログ回路教室

p.234 図6-5: 右側の網掛け部分の式の下から2行目の右辺は, $\pm \Delta R_4 I_S G_D$

p.236 写真6-4(c): 上: 0.1 V/div., 写真6-4(d): 上: 0.5 V/div.

p.237 写真6-5(a): 上: 2 m V/div.,

写真6-5(b): 上: 0.1 V/div.

p.237 写真6-6(a): 上: 2 m V/div.,

写真6-6(b): 上: 0.1 V/div.

p.239 図6-9: 右側の網掛け部分の一番下の式の左から1番目の \equiv

p.240 図6-10(a): IC_1 の型名は NJM4580D, 図6-10(b): R_{28} は2.4 k Ω , TA76431SのK-A間の電解コンデンサは47 μ Fで参照名はC₁₅, TA76431のK電極とR電極を接続する。

p.241, 表6-3: 金属皮膜抵抗の1 k Ω の欄のR₃₁を削除。カーボン皮膜抵抗の47 Ω / 2 Wの行をすべて削除。

● 電話交換機エミュレータの製作

p.264 図1: SW₁のGNDへの接続を削除し, 未接続の端子をGNDへ接続する。

● マルチフェーズ電源回路の動作原理…

p.269 および目次の筆者名: 折笠 政博

p.269 図3: $Tr_3 \rightarrow Tr_2, Tr_2 \rightarrow Tr_3$

p.274 図9: ロー・サイド・ゲート駆動電圧の2.358 μ sはハイ・サイドOFF, ロー・サイドON